

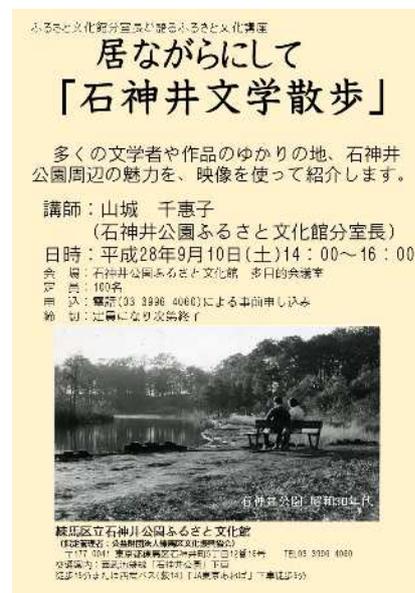
	事前のお知らせ <b>石神井公園ふるさと文化館講座</b> <b>居ながらにして「石神井文学散歩」を開催します</b> ～石神井文士の見た風景を映像で振り返る～
	開催日時 平成28年9月10日(土)午後2時～4時 開催場所 石神井公園ふるさと文化館(石神井町5-12-16)
歴史・民族・自然など、様々なテーマで行うふるさと文化講座。 今回は、多くの文学者や作品のゆかりの地、石神井公園周辺の魅力を、映像を使って紹介します。 江戸時代から、森と水の美しい景勝地・石神井には文人たちが訪れては、印象を記しました。俳人たちの吟行の場でもあります。また、昭和前期には、太宰治、檀一雄といった作家たちが石神井に集まり、その若い時代の交友を深めました。戦後には、多くの作家が石神井に住むようになり、「石神井文士」という言葉も生まれました。 近年明らかになったことですが、作家や美術家、評論家、学者など地域の文化人が結集し、住民のために、さまざまな催しを行った自主的文化団体「石神井談話会」の活発な活動もありました。 まだまだ未発見の多い、そんな石神井の魅力をみなさんとともに考え、涼しい会場で「歩いた気分」を楽しんでいただく講座です。	

【講座「石神井文学散歩」について】

- 日時：平成28年9月10日(土)
- 場所：石神井公園ふるさと文化館多目的会議室
- 講師：山城千恵子(石神井公園ふるさと文化館分室長・学芸員)
- 参加料：無料
- 定員100名(申込順)
- 申込：石神井公園ふるさと文化館 03-3996-4060

参考【石神井が登場する文学作品】

江戸時代の『遊歴雑記』『嘉陵紀行』などから、高浜虚子『武蔵野探勝』、檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』、五味康祐『指さしていふ』、眞鍋呉夫『天馬漂泊』、庄野潤三『静物』などに当時の石神井が描かれている。現代では高橋源一郎の小説『ゴヂラ』などに登場するほか、『ど根性ガエル』の作者・吉沢やすみも石神井に住み、当地を思わせる描写が作品に登場する。



ふるさと文化館分室長が語るふるさと文化講座  
**居ながらにして**  
**「石神井文学散歩」**  
 多くの文学者や作品のゆかりの地、石神井公園周辺の魅力を、映像を使って紹介します。  
 講師：山城 千恵子  
 (石神井公園ふるさと文化館分室長)  
 日時：平成28年9月10日(土)14:00～16:00  
 会場：石神井公園ふるさと文化館 多目的会議室  
 定員：100名  
 申込：電話(03-3996-4060)による事前申し込み  
 締切：定員になり次第終了

石神井公園 撮影:04.14  
 練馬区立石神井公園ふるさと文化館  
 (練馬区立石神井公園ふるさと文化館分室)  
 〒177-0014 東京都練馬区石神井5-12-16 TEL:03-3996-4060  
 分室長：吉沢やすみ(石神井公園) 下層  
 定員が満員になり次第終了(人数) 申し込みは04.14まで(申し込み)